

# 音楽科学習指導案

日時 令和4年5月27日(金) 公開授業 I

学級 岩手大学教育学部附属中学校

3年A組35名

会場 音楽室

授業者 赤沼周子

1 題材名 和歌の言葉の抑揚やリズムを生かして日本の音階で表現しよう

## 2 題材について

### (1) 生徒観

本校の生徒は、音楽の学習に高い関心・意欲をもって取り組んでいる。3年生は、1年時から作曲アプリを使用している。創作の過程で、形式や終止形についても学習しており、互いの作品を鑑賞するときに、各々のイメージの具現化について、音色やリズム、旋律についてアドバイスをしながら鑑賞し、修正を行っている。このことから、個や協働により音楽的な見方・考え方を働かせながら、イメージを具現化しようと創作している生徒が多い。

生徒は既習内容として、1年時に「ハ長調による、二部形式の旋律づくり」、2年時に「カノンをモチーフにした、コード進行に沿った旋律づくり」を学習している。授業では、紙面でのリズム創作から、タブレットを用いた旋律創作へ段階を経ることにより、創作に対する抵抗感を減らし、創作することができた。また、自分のイメージにあった音色を探し、順次進行・跳躍進行を用いることで、思いの具現化を図ること、和音に沿って旋律を考えることで、伴奏に合った旋律となることを理解している。

日本の音楽について、生徒は1年時に器楽の学習(箏)で、「さくらさくら」を演奏し、平調子を学習した。2年時には、タイ国の学生との文化交流において、数名が、日本の音階でのBGMづくりに挑戦している。日本の音階については、BGM作成時に資料として、民謡音階・律音階・都節音階・沖縄(琉球)音階の響きを確認した程度であり、音階そのものに焦点をあてた学習は行っていない。

創作の最後に行う「創作の学習で思うこと」というアンケートに、「言葉やテーマがあると創作しやすい」「山場となる部分をもっと壮大に演出したい」「自分の考えを楽譜に書き表すことが難しい」「臨時記号を思い付きで取り入れると、まとまりがなくなる」「一人だと旋律づくりが難しい」などと答える生徒が見られた。このことから、生徒は、機器操作には慣れていても、短い旋律を楽譜に書き表すことが難しい現状であるが、協働的な学びを展開しながら、テーマを設定し、音階やリズムを意識することで、さらに音楽イメージをもって創作に取り組むことができると考えられる。

生徒が日常で多く聴いているのは、J-POPやK-POPなどである。J-POPやアニメソングの中には、歌の一部が日本の音階や、五七調の歌詞となっている曲もあることを紹介すると、初めて気付く生徒が多い。今回、和歌の語感(抑揚・リズム)や日本の音階を用いて創作を行うことにより、音を並べる活動として創作をとらえるのではなく、旋律の創作によって音にこだわりをもって、生徒が持つ音楽的な力や可能性をさらに伸ばしたいと考える。また、民謡音階や都節音階など、日本の音階をもとに魅力ある音楽を自らの手で創作し、愛着をもって音楽に接する姿、生涯にわたって音楽に親しんでいく姿の育成を目指したい。

### (2) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領<第2学年及び第3学年>A表現の(3)創作ア、イ(ア)、ウを指導事項として位置づけ、[共通事項]との関連を図りながら指導をすすめていく。

モチーフとなる和歌は、今から800年くらい前の鎌倉時代にまとめられた百人一首から四首選出した。多くの和歌から選出された百人の歌には、たった三十一音の中に、作者が感動した自然の風景や、そのときどきの気持ちが込められており、国語での学びを生かしながら、イメージを膨らませやすい題材でもある。そして、和歌は五・七・五・七・七、からできた短い詩歌である。この「五」と「七」のリズムは、身の周りでも歌詞やキャッチフレーズなどで多く使われているリズムである。なぜか印象に残りやすく、覚えやすいこのリズムは、休符や伸ばしを用いて四拍子で表現されることも多い。この特性を生かし、言葉の抑揚やリズム、作者の思いに気持ちを寄せることで、音楽のイメージも膨らませやすいと考える。

今回、季節の和歌を四首提示し、和歌の雰囲気やイメージに合わせて選択した日本の音階で創作する。生徒に提示する四首の和歌は、小学校時代や百人一首の学習ですでに出会っている和歌である。作者の考えや風景をイメージしやすい和歌を選ぶことで、言葉の抑揚やリズム、音に向き合う(創作における試行錯誤の)時間を確保したい。この学習を通し、言葉のもつ特徴、日本の音階の特徴と、表したいイメージとを関わらせて考えることができ

ると予想される。そして、協働で上の句と下の句の旋律を創作することにより、音や旋律のつながり方にも注意をしながら創作活動を進めることとする。音階と言葉などの特徴と、音のつながり方の特徴は相互に関連するものであるため、表したいイメージと関わらせて一体的に理解する学習を展開していきたい。

### (3) 教科研究との関わり (指導観)

本校音楽科において育成を目指す資質・能力を下記の通りとしている。

- 【思考力等】自らの感性を働かせ、音楽の特徴を深く知覚・感受しながら自らが感じ取った価値を自覚し、音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてその良さを見出したりする力。
- 【協調性等】他者の表現や意見に耳を傾け、また、音楽のよさや美しさを知覚・感受し、自らの表現や聴き方に生かす力。
- 【主体性等】自分や社会にとっての音楽の意味や価値を追求しながら、よりよく表現しようとし、深く味わって聴こうとする力。

上記の内容を育成するために、本研究では「主体的・対話的で深い学び」「情報・情報活用技術の効果的な活用」「生活や社会とつながる学び」の3視点からアプローチする。

#### ①主体的・対話的で深い学び

生徒が主体的・対話的に活動を行うには、選択した和歌の情景を、既習内容を生かしながらアイディアを出し合える共有と共感が大切となる。イメージを共有することにより、表したい音楽表現が具現化され、試行錯誤する音楽によって喚起されるイメージや感情を再認識することができる。一人では具現化が難しいものでも、個で学んだものを協働的な学びに生かしたり、協働的な学びを個の学びに生かしたりして、往還的な学びを展開したい。また、一人ひとりが「音楽的な見方・考え方」を働かせ、音楽表現をしたり、創作した作品を聴いたりする過程において、互いに気付いたことや感じたことなどを言葉や音楽で伝え合い、音楽的な特徴について共有したり、共感したりしたことを生かすことで、作品がよりブラッシュアップされ、深い学びに繋がると考える。

#### ②ICTの効果的な活用

本題材では、作曲アプリを用いた創作を行う。このアプリでは音色を選択でき、録音・保存機能もあるため、自分の作品を客観的に振り返ることができる。また、客観的な視点からさらに情景や言葉、旋律を意識し、イメージを膨らませ、様々な音色で作品を演奏・視聴することも可能となる。形に残すことが難しい音楽において、風景画や和歌のイメージ画像に、旋律を乗せて保存し、一つの作品として形に残すこともできる。コロナ禍において、楽器の共有は難しいため、一人一台のタブレットを有効活用した試行錯誤や、データの共有を行い、作品の完成に向けて協働活動を展開したい。また、タブレットでの検索を可能とし、関わる情景や和歌の意味についての検索も適宜行えるようにする。作品の発表場面や振り返りでは、学習支援アプリを使用する。生徒の考えや思考の様子を共有する場面や振り返りの蓄積で、効果的に活用したい。

#### ③生活や社会とつながる学び

私たちの身の回りには、「五」と「七」のリズムをもつ言葉が多いことや、日本の音階で J-POP やアニメソング、歌唱共通教材も作曲されている曲があるという事実を知ると、生徒も創作活動に興味を持って取り組むことができる。我が国古来の文化が、実は自分たちの生活の一部として根付いており、親しみを感じる発見にも繋がるだろう。授業をきっかけに作曲アプリでの創作に興味を示す生徒が多いため、日常行う歌唱以外にも音楽に触れる環境を整え、多方面から音楽に親しむ態度の形成にも努めていきたい。

## 3 題材計画

### (1) 題材の目標

- ・音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解する。
- ・創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付け、創作で表す。 【知識及び技能】
- ・リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、まとまりのある創作表現として、どのように表すかについて思いや意図をもつ。 【思考力・判断力・表現力等】
- ・音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、我が国の音楽文化に親しむ。 【学びに向かう力、人間性等】

## (2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b> 音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。</p> <p><b>技</b> 創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせの技能を身に付け、創作で表している。</p>	<p><b>思</b> リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、まとまりのある創作表現として、どのように表すかについて思いや意図をもっている。</p>	<p><b>態</b> 音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。</p>

## (3) 指導と評価の計画

時	◇学習のねらい ・学習内容	関連する評価の観点			見取りの視点 【評価方法】
		知技	思判表	態度	
1	<p>◇わたしたちが心地よいと感じる言葉のリズムを探ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りにある歌、キャッチフレーズ等のリズムに五音と七音のリズムが多くあることに気付く（字あまり、字足らずを含む）</li> <li>・身近な五音と七音の例と日本の音階を知る</li> <li>・日本の音階を復習する（民謡・律・都節・琉球）</li> <li>・音階の印象を体感するため、自作の言葉に日本の音階で簡単な旋律を創作する</li> </ul>				<p>五音・七音のリズムが印象に残りやすいことや、言葉と音階との関わりについて関心をもっている</p> <p>【記述内容・行動観察】</p>
2	<p>◇言葉の抑揚やリズムを理解し、イメージにあった旋律をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌を選ぶ</li> <li>・四首の和歌を用いて、言葉の抑揚を確認する</li> <li>・和歌のイメージに合った画像を決める</li> <li>・日本の音階から1つ選択し、イメージにあった旋律をグループで創作する</li> <li>・創作しながら、言葉の抑揚を考える</li> </ul>	知			<p>言葉の抑揚を理解し、イメージをもって創作している</p> <p>【記述内容・行動観察】</p>
3 本時	<p>◇言葉の抑揚やリズムを生かし、日本の音階で旋律をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の続きを創作する</li> <li>・上の句と下の句のつなげ方を考える</li> <li>・1～2グループの作品を共有し、作品を調整するヒントを得る</li> </ul>		思		<p>和歌のイメージを共有し、思いや意図をもって表現している</p> <p>【記述内容・行動観察】</p>
4	<p>◇各グループの作品を聴き合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の最終調整を行う</li> <li>・各グループの作品を学習支援アプリで共有</li> <li>・グループ毎の発表（和歌から受けたイメージ、表したかったことなど根拠も述べる）</li> </ul>	技		態	<p>課題や条件に沿った音の選択や組み合わせの技能を身に付け、創作で表している。</p> <p>【記述内容・行動観察・作品】</p>

## 4 本時について

### (1) 本時の目標（ねらい）

- ・リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、まとまりのある創作表現として、どのように表すかについて思いや意図をもつ。

### (2) 評価規準

- ・リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、まとまりのある創作表現として、どのように表すかについて思いや意図をもっている。

【思考・判断・表現】

### (3) 授業構想

前時に創作する和歌と音階を選択する。四季を表す和歌は次の通り。

春	ひさかたの	光のどけき	春の日に	しづ心なく	花の散るらむ	: 紀友則
夏	春すぎて	夏来にけらし	白妙の	衣ほすてふ	天の香具山	: 持統天皇
秋	ちはやぶる	神代も聞かず	竜田川	からくれなゐに	水くくるとは	: 在原業平朝臣
冬	田子の浦に	うち出でて見れば	白妙の	富士の高嶺に	雪は降りつつ	: 山辺赤人

それぞれの和歌に対し、情景のイメージを共有する。その和歌の情景を音楽で表現するには？として、言葉の抑揚と日本の音階を用いて、日本らしい旋律の具現化を目指す。また、グループ内で上の句と下の句に分けるため、音や旋律の繋がりを意識して創作し、一つの作品完成を目指す。

### (4) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	指導上の留意点および評価 ・指導の留意点 ○評価
導入	1.学習内容の確認。 前時選択した和歌と音階、言葉の抑揚を生かして創作する。	・タブレット検索を可能にし、情景の共有を行う。その情景から受ける印象を言葉にし、さらに認識を深める。
5	2.学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。	
<b>【学習課題】 言葉の抑揚やリズムを生かし、日本の音階で旋律をつくろう</b>		
展開	3.グループごとに分かれて、創作する。 情景のイメージを共有する。 選択した音階について、使用する音の高さや動きについてグループ内で交流する。 イメージを表すために、旋律の動きの見通しをもつ。 思いや意図をもって、音色を選択する。	・「寂しさ」「美しさ」「大きさ」「優雅さ」など、和歌から受けるイメージをリフレーミングし、創作の方向性が見出せるよう支援する。
35	4.上の句と下の句の旋律をつなげ、再考する。 旋律をつなげた時の音楽のまとまりについて交流する。 各自が感じたことを発表し、調整点を明らかにする。 旋律が早めに創作できた場合、前奏や後奏を創作する。	・選択した音階の音が全て使用されているか、各グループの状況を細かく観察する。
	5.現段階の作品を教師に提出する。 作品を送信する。 学習支援アプリの場合、作曲アプリを画面録画し、教師に送る。	○リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、まとまりのある創作表現として、どのように表すかについて思いや意図をもっている。(ワークシート、行動観察) <b>【思考・判断・表現】</b>
終結	6.振り返り 自身の取り組みを振り返り、タブレットに入力する。 全体で交流。	・本時の取り組みについて振り返るとともに、次時に再調整の時間に取り組むことを確認する。
10	7.次時の見通しをもつ。	

#### 【参考文献】

岩手県中学校教育研究会 国語部会 浜島書店編集部 (2021)『国語便覧』 浜島出版。  
別宮貞則 (2005)『日本語のリズム 四拍子文化論』 筑摩書房。  
文部科学省 (2018)『学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 音楽編』 教育芸術社。